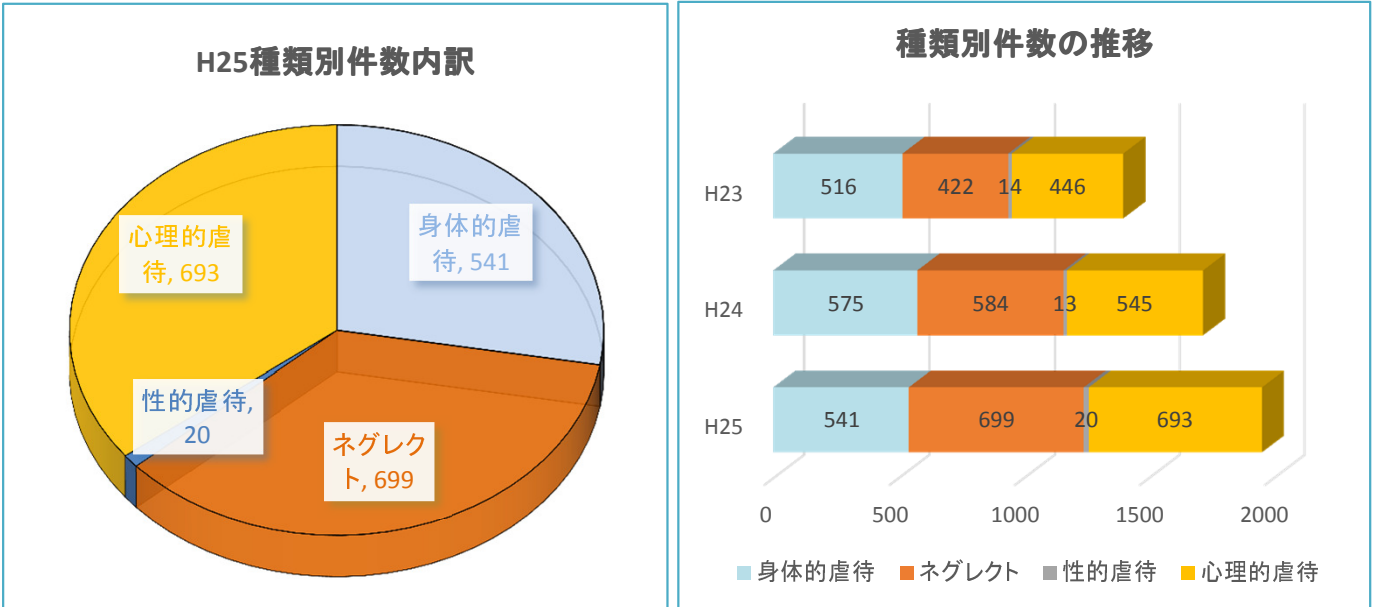
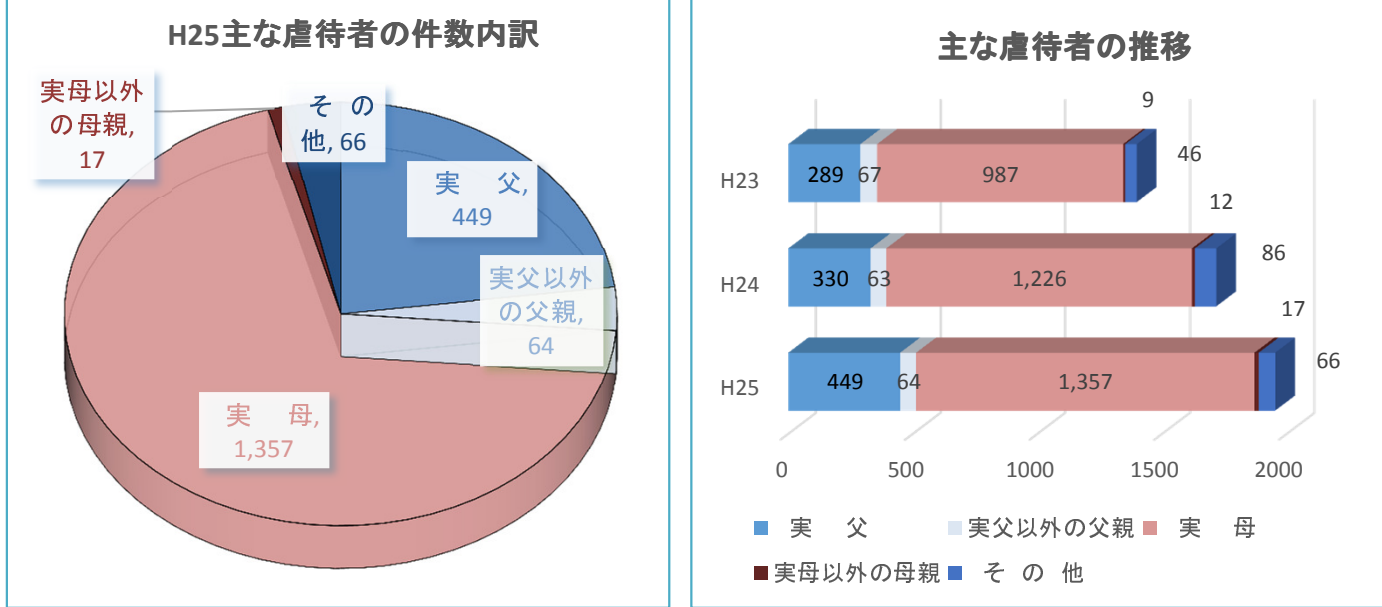


虐待の種類



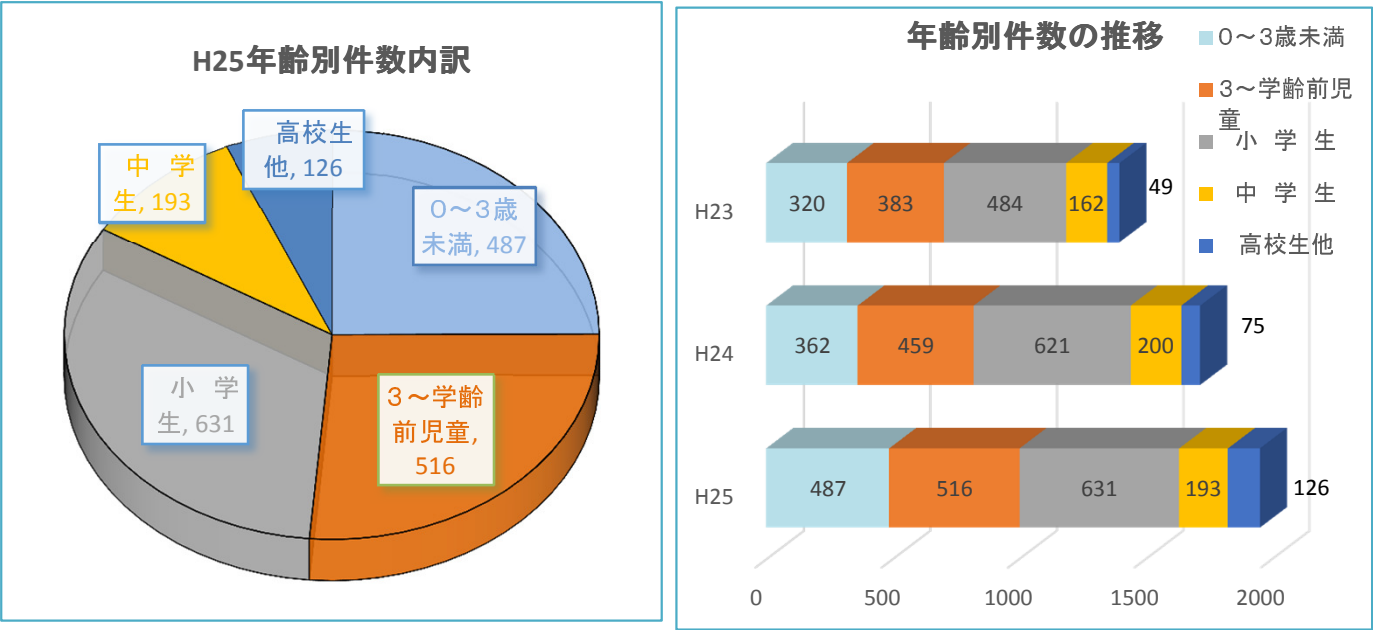
「ネグレクト」が最も多く、次いで「心理的虐待」「身体的虐待」の順に多い。「心理的虐待」は前年度比148件増（27.2%増）と最も大きな増加率を示しており、次いで「ネグレクト」が15件増（19.7%増）となっている。

主な虐待者



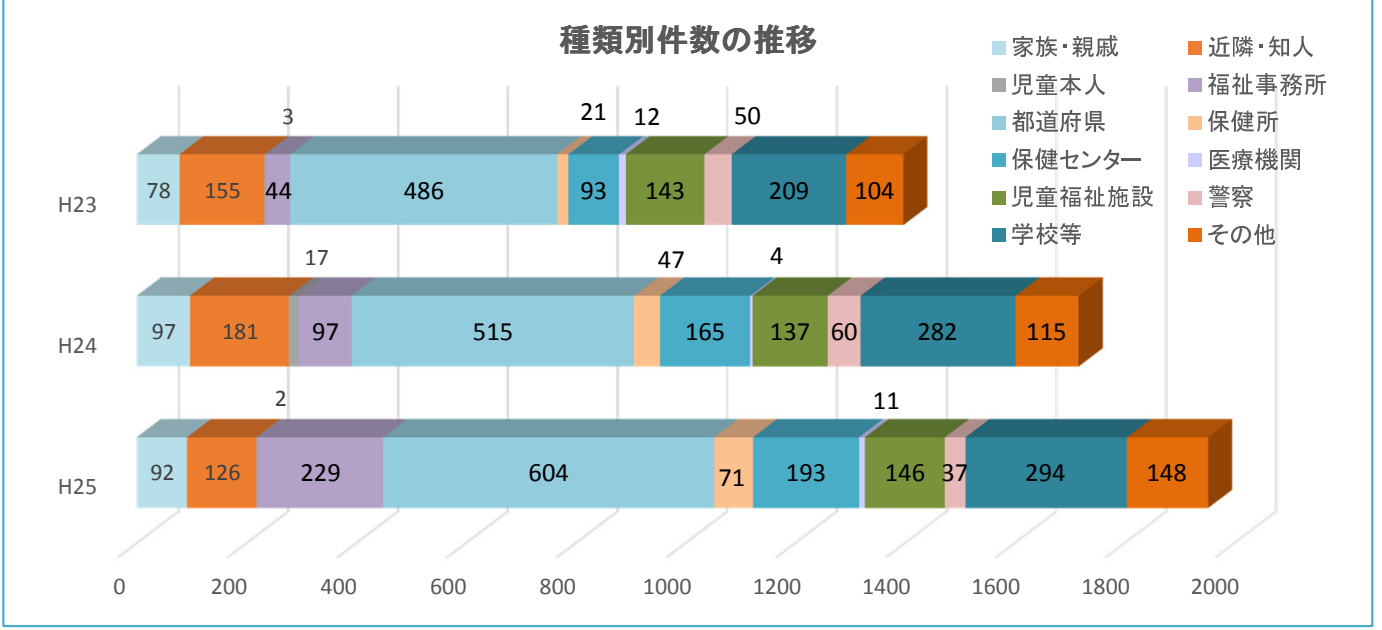
「実母」が全体の7割近くを占め、「実父」と合わせた「実親」の割合が、全体の9割を超えている。

被虐待児の年齢



全体の半数以上が、就学前の児童で、「0～3歳未満」が前年度比125件増（34.5%増）と、増加が目立つ。「高校生」は全体に占める割合は少ないものの、前年度比51件増（68%増）と急激に増えている。

虐待通告の経路



関係機関からの通告が多く、福祉事務所（132件・136.1%増）、保健所等（24件・51.1%増）の増加が目立つ。件数としては、県からの通告が604件で一番多く、全体の30%程度を示している。